

「ぞうれっしゃ」コンサート さいたまで来年7月 一緒に歌いましょう

太平洋戦争中、ソウを守り抜いた動物園の園長の実話を基にした合唱組曲「ぞうれっしゃがやってきた」のコンサート(毎日新聞さいたま支局など後援)が来年7月1日、さいたま市の埼玉会館大ホールで開かれる。「川口ぞうれっしゃ合唱団」が1991年に川口総合文化センターで初演し、その後、ほぼ2年ごとに歌声を披露しており来年で14回目。公演ごとにメンバーを募集しており、今回も「一緒に歌いましょう」と呼びかけている。

【鶴沢哲雄】

メンバーを募集



自宅で練習を重ねる渡会美和子さん(左)と心月さん
川口市元郷で

90年に蔵市で開かれた別のグループの演奏会で、この曲に出合った合唱団会長の荒木紀理子さん(61)が「歌が放つ平和への思いと子どもたちの希望に満ちた大歓声のフィナーレに感動」し、翌91年からコンサートを始めた。

特別列車「ぞうれっしゃ」が動物園に向け運行した。合唱団メンバーは当初、川口市民が中心だったがが県内全域に広がった。年齢も2歳から80歳代と幅広く、これ

までに延べ5000人以上が参加。来年のコンサートに向け、今月から川口市内で練習を

始めた。同市のメンバー、渡会美和子さん(47)は長女の高校1年、心月さん(16)と来年で4回目の参加になる。約10年前にコンサートを鑑賞して感銘を受け、自身も参加した。美和子さんは「歌う時、歌詞に感情移入し過ぎると涙が出るのでコントロールが難しい」と話す。小学3年の時に初めて参加したという心月さんは「初めてのセリフの練習では、緊張で声が裏返り恥ずかしかった」と振り返る。現在は子どもパートに加わる心月さんは「戦争の悲惨さは現実感がないが、将来、大人のパートに加われれば目線が変わるかもしれない」と話す。

荒木さんは「一人でも多くの人と『ぞうれっしゃ』の歌でつながり、その思いを紡いでいきたい」と語った。申し込みは荒木さん(048・268・9250)へ。